



健康的な天然木材の床

フローリング・ニュース

発行所：一般社団法人日本フローリング工業会
編集責任者：広報法務委員長 石本勝範

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6F
TEL 03-3868-0971 FAX 03-3868-0972 <https://www.j-flooring.jp/>

中央省庁要請活動を実施

令和3年7月19日（月）

中央省庁は、翌年度予算案を9月1日に財務省に提出しますので、（一社）日本フローリング工業会は、例年7月、木質フローリングの振興施策を一層強化していただくよう、正副会長等（7人）が林野庁、国土交通省の関係部署に要請活動を実施してきています。

今年は、コロナ禍対策として政府等が国民に3密を避ける行動を要請していたことから、会長、専務理事の2名のみで7月19日（月）に中央省庁の関係幹部・部署に要請活動を実施しました。

林野庁においては、市川会長が、工業会会員が国産材の活用に努力していること、住宅のみならず文教施設、商業施設にも用途を拡大に努めていること、品質性能と機能性を備えた木質フローリングの安定供給に寄与していること、正しい施工方法と責任施工の徹底を通じた施工管理体制の充実を図っていることを説明し、木質フローリングへの施策拡充、木材高騰状況を踏まえた木材の安定供給・価格安定のための施策拡充、公共建築物のみならず民間非住宅建築物の木造化・木質化の施策拡充を求める要請書を手渡しました。林野庁からは、木材の安定供給に努める施策、木材の利用促進のための施策を強化していきたいとの返答がありました。



織田林野庁次長



齋藤林野庁木材産業課長

また、国土交通省では、大臣官房営繕部建築技術調整室、住宅局木造住宅振興室を訪れ、公共建築工事標準仕様書改定の検討あるときは工業会の意見を聴いていただきたいこと、コロナ禍、木材高騰等により住宅着工が遅れている現状から、グリーン住宅ポイント期間の弾力的運用を検討することを求める要請書を手渡し、国土交通省からは要請の趣旨は理解したので配慮したい、公共建築物、住宅等の品質向上に向けて協力願いたいとの返答がありました。

12月理事会 2年ぶりに理事会が林友ビルで開催される・・・リモート参加も可能として開催

令和3年12月8日（水）

コロナ禍が続き、工業会の会合、会議を開くことができませんでしたが、新規陽性者数が低位にあることなどから、12月理事会を林友ビルで開催しました。加えて、コロナ対策は会員や地域ごとに違うこともあり、また遠隔地から参加しやすくすることもあり、リモート参加も可能として開催し、6名の理事がリモートで参加しました。

会長からは、「業界にとって厳しい環境だが、カーボンニュートラルの観点から木造大規模建築の動きもある。逆風を跳ね返すようなご意見を願います」との挨拶がありました。



＝挨拶をする市川会長(13時32分)＝

議事の内容は、

令和3年度の見込み決算、令和4年度の予算案と今後の予算検討等、理事数の見直しをするかの検討、コロナ禍における令和3年度の工業会活動の報告 などについて審議しました。

さらに、令和4年度通常総会を令和4年3月11日に木材会館（東京都江東区新木場）で開催することについて了承されました。

＝リモート参加者とともに開催した理事会＝



開催にあたり、入口にはアルコール消毒噴霧器を設置し、マスクの配布や扉を少し開いて換気するなどのコロナ対策を行いました。



※例年7月に開催している理事会については、コロナ禍により開催を見送りました。

関税改正に伴う「SPF 製材」及び「ヘムファー製材」の小分類新設等

世界税関機構（WCO）は、品目表を改正し、令和4年1月1日から、製材の下に SPF とヘムファーの小分類が新設されます。

これに伴い、日本の関税率表でも同様の小分類が新設され、その下に新たな輸入統計品目が新設されこととなりました。

また、この他にも各項に、「単板積層材（LVL）」、「構造用集成材」、「直交集成板（CLT 等）」、「I型はり」、「棺」の小分類として新設されます。

なお、今回の改正による関税率の変更はありません。

建築物木材利用促進協定の第1号

公共建築物等木材利用促進法が民家建築物も対象とした「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」として改正され10月1日に施行されました。新しい法律では、建築物での木材利用を一層促進するため「建築物木材利用促進協定」制度が創設されました。

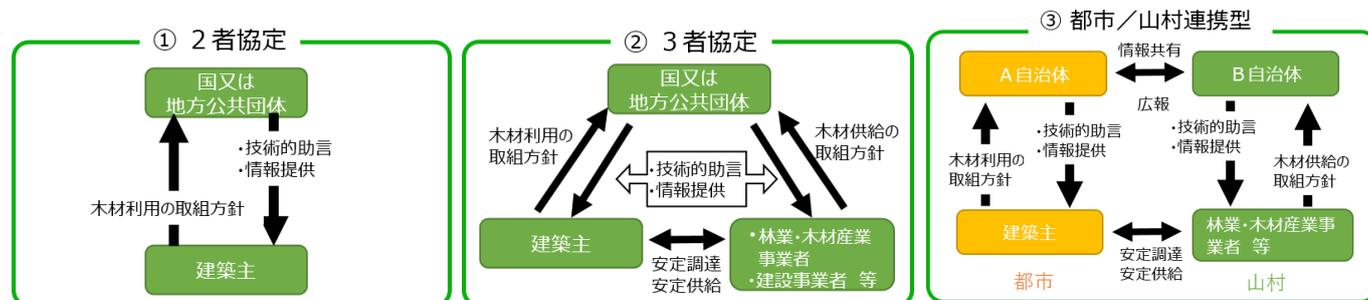
この新制度の第1号として、国土交通省と公益社団法人日本建築士会連合会が令和3年11月20日に木造建築物の設計・施工に係る人材育成や木造建築物の普及活動等を推進する協定を締結し、

- ・日本建築士会連合会は、中大規模木造設計セミナーの開催、「木の建築賞」（表彰制度）の実施、木造建築技術者の育成、都道府県建築士会と地方公共団体との協定の締結の働きかけ等

- ・国土交通省は、講師の派遣等による情報提供、建築士会連合会の取組の周知・広報に関する協力、都道府県建築士会と地方公共団体との協定締結等の連携の促進等の役割を担うとしています。

建築物木材利用促進協定とは

建築物における木材利用を促進するために、建築主である事業者等と国又は地方公共団体が協定を結び、木材利用に取り組む制度です。



炭素貯蔵量の表示に関するガイドラインが策定される

木は二酸化炭素を吸収し、光合成により肥大生長をしながら二酸化炭素を木材として固定しています。11月にイタリアで開催されたG20サミット、続いて英国で開催された気候変動枠組条約締約国会議（COP26）では、気候変動を食い止めるための「意味のある効果的な行動」として二酸化炭素の排出抑制などが話し合われました。

こうした世界的な潮流の中、日本でも、伐採した木材を木材のまま維持して二酸化炭素を固定し、排出を抑制する目的で、木材を大量使用する大型木造ビルの計画の実現や構想化があいついでいます。

10月に、林野庁は、木材利用が二酸化炭素の貯蔵を通じてカーボンニュートラルに資することに鑑み、「建築物に利用した木材の二酸化炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン」（林野庁長官通知）として、建築物に使用した木材について、炭素貯蔵量（CO₂換算量）の計算方法等を定めました。

10月8日（木の日）に開催されたシンポジウム（公共建築物木材利用促進法改正の記念）においては、林野庁長官が、「欧州では建築物に炭素固定量を掲示することがある。このガイドラインにより日本でも同様の掲示を広げていきたい」と述べています。

過去には、地方公共団体等から会員への問い合わせにより、公共建築物の二酸化炭素固定量試算を提示したこともあります。今後はこのガイドラインを使用して対応していくこととなります。

ヒューリック（不動産業）が東京銀座に竣工した耐火木造12階建商業ビル

設計施工：竹中工務店

基本デザイン：隈研吾建築都市設計事務所



北海道・東北支部だより

稲荷山勇雄 北海道・東北支部（空知単板工業株式会社）

令和元年3月に北海道東北支部長を仰せつかり早いもので3年半が過ぎました。一年目は北海道フローリング協会が解散したことで北海道・東北支部の活動をどのようにするかを思案しながら、二年目を迎えると共に新型コロナウイルスが日本全国にまん延し、非常事態宣言の発出などにより誰も経験したことのない状況になってしまいました。四年目の来年をどのように活動するかは今から準備を進めて行きたいと考えていますが、コロナ感染者数がどの様に変化していくかは誰も予測が出来ない難しい状況です。

北海道経済産業局の10月発表をみますと、観光・公共事業は減少、個人消費・雇用動向は弱い動きがみられる、企業倒産の件数は減少しているが負債額は増加、総括としては依然厳しい状況にあるが持ち直しの動きがみられるとのことです。しかし、北海道の住宅着工は1~6月までは前年比109%と好調でしたが、7月以降は分譲マンションが大きく減速しているのが気掛かりで、実感としては発表とは少し隔たりを感じています。

ひとこと

稲荷山勇雄 北海道・東北支部（空知単板工業株式会社）



「白鳥の飛来が早いと寒い冬で大雪になる」という俗説を知っていますか？

新潟県阿賀野市にある瓢湖に渡来する白鳥の飛来数、渡来時期と新潟気象台の気象データとつぎ合わせて解析、飛来数が多い年は1月の平均気温が低く、降雪量も多い事から、俗説がかなりの的を射ていることを明らかにしているそうです。

原油価格の高騰は様々な分野にも影響がありますが、北海道は必需品である暖房用燃料の灯油が過去最高値になりつつあります。暖房を約半年間使う北海道民には暖房費高騰は非常に痛手であるうえに、当地で渡り鳥の声が例年より早く聞こえたことから、今年の冬は厳冬と暖房費高騰の二重苦で長く辛い冬になりそうですが、温かい春が来るのを楽しみに過ごしたいと思います。



●広報法務委員

- 委員長 石本 勝範
- 委員 佐藤 仁明 委員 矢野 伸和
- 委員 清見 謙造 委員 當舎 弘造

●会員動向 令和3年12月1日時点

正会員	50社
賛助会員	18社
合計	68社

●告知板

3月11日(金) ...令和4年度通常総会

編集後記

今年は、コロナ禍に加え、木材価格の高騰やフローリング資材、住宅資材の輸入停滞など業界にとって厳しい環境が重なってしまいました。新型コロナウイルスの新規陽性者数が急減してやや一息でしょうか。そんな中、12月理事会で、理事・監事の皆様の明るく元気な会話が久しぶりに耳に入り、工業会活動がにわかに活発になった錯覚を覚えました。工業会は会員さんの明るい交流あったのことだと改めて思いました。皆さま、良いお年を。

